角田市水道ビジョン取組状況（令和7年度）

基本目標１　安全「安全でおいしい水の供給」

実現方策1-1　水源水質の保全　　＜水道ビジョン年次計画＞　　※達成状況：〇達成、△取組中、×未達成、－該当なし

施策内容	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	達成状況	R7実施内容等
水源地域における水質異常等の対応	随時対応	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	○	大雨時や取水口工事等の際は、取水停止で適切に対応した

実現方策1-2　水質管理体制の強化　　＜水道ビジョン年次計画＞

施策内容	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	達成状況	R7実施内容等
末端給水栓の毎日検査の実施	実施	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	○	例年通り8か所で毎日実施した(基準超過項目なし)
広域協議会による水質基準項目の実施	実施	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	○	法令基準どおり原水及び浄水の検査を実施した(基準超過項目なし)
水安全計画の見直し・運用	見直し	運用	→	→	→	→	→	→	→	→	見直し	○	R3末に水安全計画を策定し、R4から運用している

計画どおり実施しました

実現方策1-3　給水装置の安全性の確保　　＜水道ビジョン年次計画＞

施策内容	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	達成状況	R7実施内容等
工事事業者に対する適切な指導	随時実施	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	○	設計審査・工事検査時において適切に指導を行っている
鉛管使用判明時の速やかな布設替	随時対応	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	○	給水管漏水時に2件判明し布設替えを行った

適切に指導し、鉛管の布設替えは２件でした

実現方策1-4　貯水槽水道の適切な管理　　＜水道ビジョン年次計画＞

施策内容	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	達成状況	R7実施内容等
管理者に対する点検等管理の指導	随時実施	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	－	とくに指導が必要な案件はなかった

業務指標による現状と目標値　　※目指すべき方向

業務指標	方向	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	目標値 R13	R7進捗説明等
平均残留塩素濃度（mg/L）※水道法0.1以上	→	0.3	0.4	0.4	0.3	0.4	0.4						0.2	いわゆる「おいしい水の要件(0.4以内)」の範囲内である
最大カビ臭物質濃度水質基準比（%）	↘	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						0.0	検出されなかった
総トリハロメタン濃度水質基準比（%）	↘	9.7	9.7	10.2	10.2	13.8	11.8						9.0	概ね数値の変動はなかった
有機物（TOC)濃度水質基準比（%）	↘	18.3	18.3	16.0	16.0	16.6	16.7						18.0	概ね数値の変動はなかった
重金属濃度水質基準比（%）	↘	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						0.0	検出されなかった
無機物質濃度水質基準比（%）	↘	3.0	3.0	3.0	3.0	2.6	2.7						3.0	概ね数値の変動はなかった
有機塩素化学物質濃度水質基準比（%）	↘	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						0.0	検出されなかった
消毒副生成物濃度水質基準比（%）	↘	2.6	2.8	3.1	3.4	3.4	1.9						2.5	概ね数値の変動はなかった
原水水質監視度（項目）	↗	51	51	51	51	51	51						51	法令に基づき適切に行った
給水栓水質検査(毎日)箇所密度(箇所/100㎢)	↗	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4						10.0	例年通り8か所で行った
水源の水質事故数（件）	↘	0	0	0	0	0	0						0	対象の事例はなかった(一時的な濁度上昇時は取水停止で対応)

水質について問題はなく、水質事故もございませんでした

水質基準比の説明

角田市水道ビジョン取組状況（令和7年度）

基本目標２　強靭「強靭な水道施設の構築」

実現方策2-1　管路の更新・耐震化の推進　　＜水道ビジョン年次計画＞　　※達成状況：〇達成、△取組中、×未達成、－該当なし

施策内容	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	達成状況	R7実施内容等
管路更新計画の着実な実施	1.87km	約2km	約1km	→	1.6km	約3km	→	→	→	→	→	×	中島下地区等(約1.6km)の配水管布設替工事を実施した
水管橋長寿命化事業の実施	雑魚橋川		高倉川	尾袋川	その他	→	→	→	→			〇	大谷１号橋添架管布設替工事を実施した

実現方策2-2　施設の更新・耐震化の推進　　＜水道ビジョン年次計画＞

施策内容	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	達成状況	R7実施内容等
浄水場施設等の耐震診断の実施			検討	→	耐震診断	→	→	→	→	→	→	〇	枝野配水池の耐震診断を行った
江尻取水施設の解体撤去等の実施	解体設計	河川協議	上屋解体設計	上屋等解体	地下槽検討	→	→	→	→	→	→	△	R6で上屋解体を行っており、地下槽解体については検討中である
小田浄水場の解体撤去等の実施			検討	一部解体	跡地整理							〇	フェンス設置等、跡地整理を行った。

実現方策2-3　計画的配水管網の整備　　＜水道ビジョン年次計画＞

施策内容	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	達成状況	R7実施内容等
計画的なバイパスルートの整備		中島下地内	随時検討	→	→	→	→	→	→	→	→	－	整備対象の管路はなかった
水道台帳システムの精緻化	台帳整備		精緻化	→	→							△	R6～R7に料金システムとの突合を行い、メーター位置等の精緻化を行った

実現方策2-4　応急復旧対策の強化　　＜水道ビジョン年次計画＞

施策内容	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	達成状況	R7実施内容等
管工会との協定継続・点検の実施	実施	実施	→	→	→	→	→	→	→	→	→	〇	災害時の応援協定を継続し速やかに復旧ができるよう体制を整えている
災害時マニュアル等の整備		順次整備	→	→	→	→	→	→	→	→	→	△	策定に向け整理検討している(体制等は地域防災計画で明記している)

業務指標による現状と目標値　　※目指すべき方向

業務指標	方向	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	目標値 R13	R7進捗説明等
施設利用率（%）　※平均/能力	↗	*66.8*	68.3	71.0	77.3	82.3							80.0	施設利用率は伸びているが有収率の低下によるもの
最大稼働率（%）　※最大/能力	↗	*100.1*	126.4	79.8	90.6	91.6							95.0	最大稼働時は広域水道受水の増量で賄った(小田浄水場縮小のため)
負荷率（%）　※平均/最大	↗	66.7	54.0	88.9	85.3	89.8							80.0	負荷率は目標値を上回り安定的な供給を継続した
漏水率（%）	↘	14.5	16.0	16.0	20.6	24.2							10.0	見えない漏水により有収率が大幅に低下した（原因を特定し、R6中に対策を講じる）
有効率（%）	↗	85.5	84.0	84.0	79.4	75.8							90.0	
有収率（%）	↗	82.0	80.5	80.6	75.9	72.3							86.8	
配水池貯留能力（日）	－	1.0	1.0	1.0	1.1	1.3	1.2						1.0	配水量に対し極端な過不足はない状況である
給水人口一人当たり配水量（L/日・人）	－	386.4	397.3	415.1	451.2	489.4							380.0	工場使用の増加及び漏水等により目標値を上回っている
給水普及率（%）	↗	97.1	96.9	96.9	97.0	97.0							98.0	井戸使用からの切替等はなく普及率は横ばいとなった
管路の更新率（%）	↗	0.8	0.6	0.7	0.3	0.4	0.5						1.5	管路更新を進めたが目標値未達である
管路の耐震管率（%）	↗	*48.2*	48.8	49.5	49.5	49.7	49.9						60.0	耐震化を進め微増となった

角田市水道ビジョン取組状況（令和５年度）

基本目標３　持続「持続可能な水道事業」

実現方策3-1　組織体制の整備　　＜水道ビジョン年次計画＞　　※達成状況：○達成、△取組中、×未達成、－該当なし

施策内容	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	達成状況	R7実施内容等
業務増に対応した人員配置の適正化	随時	随時	→	→	→	→	→	→	→	→	→	△	技術職員の若手職員の確保・ノウハウ継承等に課題がある
民間活用業務の導入		検討	→	*一部導入*	検討	→	→	→	→	→	→	○	官民連携事業（WPPP）への参画を検討しR9年度導入を決定した。

実現方策3-2　人材の育成・水道技術の継承　　＜水道ビジョン年次計画＞

施策内容	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	達成状況	R7実施内容等
技術継承等のための人材確保・研修の実施			研修参加	→	→	→	→	→	→	→	→	○	感染症による規制が緩くなったことで積極的に研修へ参加できた

実現方策3-3　漏水調査の強化　　＜水道ビジョン年次計画＞

施策内容	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	達成状況	R7実施内容等
漏水調査の頻度・方法等の見直し		検討	→	検討	実施	→	→	→	→	→	→	○	AIによる劣化診断と併せて調査範囲を細分化し実測による調査を実施した。

実現方策3-4　経営基盤の強化　　＜水道ビジョン年次計画＞

施策内容	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	達成状況	R7実施内容等
アセットマネジメント手法の確立			検討	→	実施	→	→	→	→	→	→	○	アセットマネジメント及び経営戦略改定を策定した。
新たな納入方法等の整備		検討	→	→	→	→	→	→	→	→	→	○	R5.9月に水道使用のオンライン申請を導入、R6.4月からスマホ決済事業者を増やした。

実現方策3-5　施設規模の適正化　　＜水道ビジョン年次計画＞

施策内容	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	達成状況	R7実施内容等
管路口径の縮小化、適切な管種の設定	随時実施	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	○	管布設替にあたり需要予測に応じた管口径及び管種の設定を行っている
浄水場施設のダウンサイジング化の実施		随時実施	→	→	→	→	→	→	→	→	→	－	施設・設備更新時期に合わせダウンサイジング化を行う。
小田浄水場の停止・地区への安定供給	管路更新	検証	*停止*	*配水系統替*	(跡地整理)							△	フェンス設置等、跡地整理を行った。

実現方策3-6　省エネルギー化の推進　　＜水道ビジョン年次計画＞

施策内容	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	達成状況	R7実施内容等
高効率機器等の導入		検討	→	→	→	→	→	→	→	→	→	－	浄水場設備等の更新時期に合わせ導入を検討する

実現方策3-7　官民連携と広域連携の推進　　＜水道ビジョン年次計画＞

施策内容	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	達成状況	R7実施内容等
広域連携の推進・包括的民間委託の検討	協議	プラン策定	協議	計画策定	随時実施	→	→	→	→	→	→	△	県を中心に漏水調査の共同発注等を協議した。

業務指標による現状と目標値　　※目指すべき方向

業務指標	方向	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	目標値 R13	R7進捗説明等
営業収支比率（%）	↗	97.1	95.5	97.7	96.1	92.5							100.0	給水収益の減少及び漏水等による受水費の増により前年度を下回った
経常収支比率（%）	↗	115.8	112.4	104.0	104.0	99.0							105.0	高料金対策補助金が対象外となり前年度を下回った。
総収支比率（%）	↗	113.0	117.6	97.9	94.5	95.2							103.0	営業費用の増及び施設の廃止等による除却があり100%を下回った。
給水収益に対する企業債残高の割合（%）	↘	85.4	78.0	77.2	74.6	69.6							70.0	企業債借入を行わず企業債残高が減少したため前年度を下回った。
料金回収率（%）	↗	102.3	99.4	103.2	101.7	97.7							102.0	給水収益が減少し漏水等による受水費の増により100%を下回った
供給単価（円/㎥）	↗	262.0	259.8	258.2	257.3	251.8							260.0	前年度比でほぼ横ばいとなった
給水原価（円/㎥）	↘	256.1	261.5	250.1	253.1	257.8							255.0	受水費の増などにより前年度を上回った
流動比率（%）	↗	557.1	652.9	517.8	400.2	582.8							450.0	投資により現預金は減少したが、未払金の減により前年度を上回った。
自己資本構成比率（%）	↗	88.4	89.4	88.5	88.3	90.2							85.0	企業債未償還残高の減少により比率は上昇した
技術職員率（%）	↗	*50.0*	36.4	36.4	36.4	45.6							50.0	人員不足の状態が続いており技術継承に課題がある
資格取得者（人）	↗	3	3	3	3	4							3	職員の新陳代謝に課題がある

角田市水道ビジョン取組状況（令和7年度）

財政収支等の状況

○給水収益(水道料金)　　＜水道ビジョン年次見通し＞　　（単位：百万円）

項目	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R7実績の説明等
計画値		806	800	809	816	823	819	814	805	801	794	792	家庭用は前年比で減少したが、工場等使用の伸びにより計画値を上回った。
実績値	815	811	827	837	828								
差異		5	27	28	12								

○純損益　　＜水道ビジョン年次見通し＞　　（単位：百万円）

項目	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R7実績の説明等
計画値		80	2	△ 84	20	34	△ 66	△ 19	34	31	30	28	R5に見込んでいた江尻取水場建屋等の解体撤去等による施工の一部をR6に実施したことに伴い計画値を下回った。
実績値	115	160	△ 19	△ 54	△ 46								
差異		80	△ 21	30	△ 66								

○建設改良費　　＜水道ビジョン年次見通し＞　　（単位：百万円）

項目	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R7実績の説明等
計画値		251	310	298	394	280	321	421	365	318	315	331	R4からR5への繰越事業による増及びより緊急性の高い水管橋工事を前倒しで施工したこともあり、計画値を大幅に上回った。
実績値	185	249	204	532	260								
差異		△ 2	△ 106	234	△ 134								

○資金(現預金)残高　　＜水道ビジョン年次見通し＞　　（単位：百万円）

項目	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R7実績の説明等
計画値		982	905	794	681	691	600	513	505	536	569	593	資金残高は計画値を若干上回っているが、ほぼ計画通りとなっている。
実績値	978	1,004	1,020	857	708								
差異		22	115	63	27								

○企業債残高　　＜水道ビジョン年次見通し＞　　（単位：百万円）

項目	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R7実績の説明等
計画値		632	579	524	476	429	385	404	430	464	503	546	R4及びR5に新設管布設に対し企業債を発行したので、企業債残高は計画値を上回っている。今後、資金残高とのバランスに留意しながら企業債発行の抑制に努める。
実績値	696	632	639	624	576								
差異		0	60	100	100								

R7年度下水道事業決算と経営戦略との比較

公共下水道（汚水）

単位：千円

項目		計画値	実績値	比較	備考
収益的収入	使用料収入	287,827	275,158	△ 12,669	使用水量の減少による減
	その他営業収益	465	278	△ 187	検査手数料
	営業収益	288,292	275,436	△ 12,856	
	長期前受金	346,920	356,979	10,059	補助金収入の収益化の増
	他会計補助金	105,763	106,284	521	
	その他営業外収益	20,013	355	△ 19,658	補助事業の繰越による減
	営業外収益	472,696	463,618	△ 9,078	
	特別利益	0	25	25	
	収益的収入合計	760,988	739,079	△ 21,909	
収益的支出	流域下水道運営負担金	56,449	56,203	△ 246	
	減価償却費	461,969	459,953	△ 2,016	R6建設改良事業の減
	その他営業費用	73,993	52,693	△ 21,300	補助事業の繰越による減
	営業費用	592,411	568,849	△ 23,562	
	支払利息	64,432	62,281	△ 2,151	企業債の想定利率に対する減
	その他営業外費用	1,356	6,772	5,416	特定収入に係る消費税見合分の支出
	営業外費用	65,788	69,053	3,265	
	特別損失	0	10	10	
	収益的支出合計	658,199	637,912	△ 20,287	

	収益的収支	102,789	101,167	△ 1,622	

項目		計画値	実績値	比較	備考
資本的収入	企業債	417,335	394,800	△ 22,535	資本費平準化債の減
	他会計補助金	201,360	221,966	20,606	前年度清算による増
	国庫補助	38,845	55,263	16,418	繰越による補助事業の増
	その他収集	9,695	4,348	△ 5,347	受益者負担金の減
	収益的収入合計	667,235	676,377	9,142	
資本的支出	建設改良費	154,500	215,448	60,948	繰越事業による増
	企業債償還金	660,700	660,699	△ 1	
	その他支出	0	0	0	
	収益的支出合計	815,200	876,147	60,947	

	資本的収支	△ 147,965	△ 199,770	△ 51,805	

項目	計画値	実績値	比較	備考
有収水量（千㎥）	1,484	1,447	△ 37	
使用料単価（円）	194.0	190.2		使用料収入/有収水量
汚水処理原価（円）	209.8	194.1		営業費用+営業外費用-長期前受金/有収水量

水道事業に係る監査総評

令和7年度の経営成績は、総収益が9億1,220万円、総費用9億2,084万円で差し引き864万円の純損失を計上し、純損失額は縮小したものの4年連続で赤字決算となった。

内容を見てみると、営業収益は8億4,361万円、営業費用は9億1,200万円で営業損失6,839万円計上。前年度と比べて、給水収益は185万円増加に転じた。また仙南・仙塩広域水道受水費などを減少させたものの、営業費用全体としては875万円増加した。これにより営業損失は前年度より15万円増加となった。営業費用に対する営業収益の割合を見る営業収支比率は、92.50％で0.05ポイント改善した。

貸借対照表を前年度と比べると、資産の部では、流動資産で5,473万円増加し、資産の部の残高は67億764万円となった。負債の部では、企業債が4,711万円減少、未払金は7,775万円増加したことなどにより、残高は18億3,806万円となった。加えて、資本の部については、減債積立金が4,711万円減少したことなどにより、48億6,957万円の残高となった。

水道事業の経営基盤を示す指標を見ると、構成比率では、自己資本構成比率が前期比0.76ポイント低下し、89.39%となるなど、経営の安全性は低下している。財務比率では、自己資本に対する負債の割合を示す負債比率は、前期比0.96ポイント上昇していたが、11.88%で健全な運営がなされている。企業活動の成果を表す収益率では、総括的な収益の割合を示す総収支比率は前期比3.88ポイント上昇し99.06%となった。業務活動の効率を示す営業収支比率は92.50%で前期比0.05ポイント上昇したものの、事業経営の脆弱性は依然として否定できない状況にある。

建設改良事業については、県道角田柴田線配水管布設替工事ほか老朽管更新事業工事等６件の工事を実施した。

令和7年度の1立方メートル当たりの給水原価は256.96円、供給単価は250.21円で6.75円の販売損となり、前年度よりも販売損が0.71円拡大している。

年間の給水状況を見ると、給水人口25,032人に供給。前年度比432人減少している。

年間総有収量は331万7千立方メートルで、前年度比2万8千立方メートル増加している。有収率は80.6%と前年度比8.3ポイント改善しているが、類似団体平均83.58%(令和6年度類型別各指標:総務省ホームページ)と比べて、やや乖離があると同時に低水準にあり、これが経営を逼迫させている要因の一つと考えられることから、引き続き漏水の原因や漏水箇所の特定を行い、更なる有収率の向上を図っていただきたい。

このように当年度も、構成比率、財務比率、収益率の各指標において、全般的に課題を抱える状態にあることが認められるものの、経営基盤の安定性に努めている点は評価できる。一方で、人口減少社会を背景に給水人口、給水世帯はさらに減少していくものと思われ、今後の水道事業を取り巻く環境はより厳しさを増すことが予想される。また、資産の老朽度合を示す有形固定資産減価償却率が58%を考慮すれば、法定耐用年数経過の管路を維持・更新する工事を計画的に進めていく必要があると考える。

従って、「角田市水道ビジョン」に基づき、基本目標である「安全でおいしい水の供給」を維持し、中長期的な戦略のもと、良質な水道水の安定供給、老朽施設の計画的な更新、事務事業の効率化による経費節減などについて引き続き取り組まれるよう強く望むものである。

下水道事業に係る監査総評

令和7年度の経営成績は、総収益が10億6,186万円、総費用9億2,399万円で、前年度よりも1億265万円多い1億3,787万円の純利益を計上した。

事業別にみると、公共下水道事業では営業収益は3億9,934万円で、営業費用は7億4,896万円となり、3億4,962万円の営業損失を計上。農業集落排水事業では営業収益1,674万円で、営業費用9,171万円となり、7,497万円の営業損失を計上。両事業の損失を他会計補助金1億4,747万円や長期前受金戻入4億8,077万円等で補填し、利益を確保している。

貸借対照表を前年度と比べると、資産の部は主に固定資産の残高が2億7,321万円減少し、資産の部の残高は174億9,162万円となった。負債の部では、主に固定負債等の減により3億808万円減少し、残高は175億7,856万円となった。資本の部については、1億3,787万円利益を計上したことにより、未処理欠損金が利益計上と同額減少したことに伴いマイナス8,693万円の残高となった。

下水道事業の経営基盤を示す指標を見ると、構成比率では、自己資本構成比率が1.1ポイント上昇し、55.55%となったものの、経営安全性の改善は必要である。企業債未償還残高も着実な減少が図られているが、営業収益規模から考えれば、約77億円の期末残高は依然として高い。財務比率では、固定比率、固定資産対長期資本比率ともに100%を上回っており、長期的な資本の枠を超えての投資が行われていたことにより、依然として厳しい状況となっている。企業活動の成果を表す収益率では、総括的な収益の割合を示す総収支比率が11.35ポイント増加し114.92%となったものの、業務活動の効率を示す営業収支比率は49.49%で、本事業の利益計上は、営業損失を営業外収益で補っていることを示している。
建設改良事業については、野田排水区雨水枝線築造工事を施工し、また同工事については延長工事継続中である。

令和7年度末における公共下水道事業の処理区域人口は15,270人、水洗化人口は13,366人であり、処理区域人口で246人(1.6%)減、水洗化人口で207人(1.5%)減、水洗化率は87.5%で、前年度比増減はなかった。一方、農業集落排水事業の水洗化率は83.2%で前年度より0.1ポイント低くなった。年間有収水量は、公共下水道事業では、144万6千立方メートルで前年度より1万8千立方メートル減少し、農業集落排水事業では9万立方メートルで、前年度より4千立方メートル減少した。

このように令和7年度も、構成比率、財務比率、収益率の各指標において、様々な項目で更なる改善を必要とする状態にあることが認められる。今後、水洗化人口や有収水量の減少等による使用料収益が減少していくことが予想され、更に財政状況は一層厳しさを増していくものと思われる。また、法定耐用年数を超える管渠は少ないものの、施設の老朽化は確実に進んでおり、近い将来、改築需要の増加も見込まれることから、引き続き計画的な維持・更新事業にも努められたい。

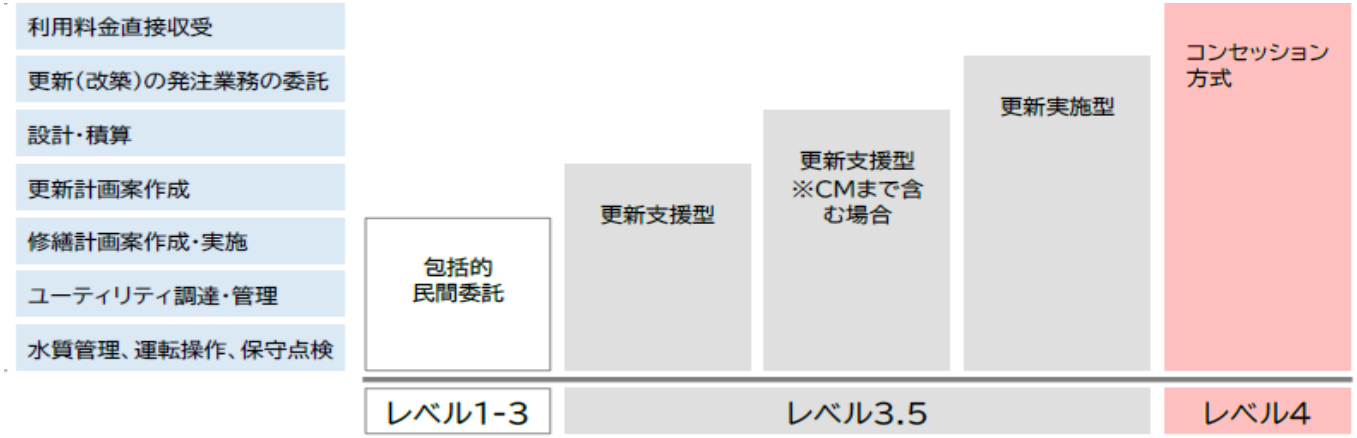
従って、経営基盤の安定化が図られるまで本市の協力を得つつ、健全で持続可能な下水道事業の経営を行うために策定した経営戦略に基づき、計画的な事業推進および経営安定化に積極的に取り組んでいただきたい。

上下水道事業官民連携事業（WPPP）の導入について

WPPP は、社会全体で人手不足が進む中、従来託されていた業務を、長期（10年間以上）で委託することにより、官民双方の事務負担軽減、効果的・効率的な事業運営をすることで、上下水道サービスが将来にわたり、安定的に提供されることを目指します。

また、担い手となる民間事業者等にとっても持続的に参画することができる環境の構築が必要であり、適切な利益やリスク分担のもと、官民が良好な関係を築き、連携して事業を実施していくことが重要となります。

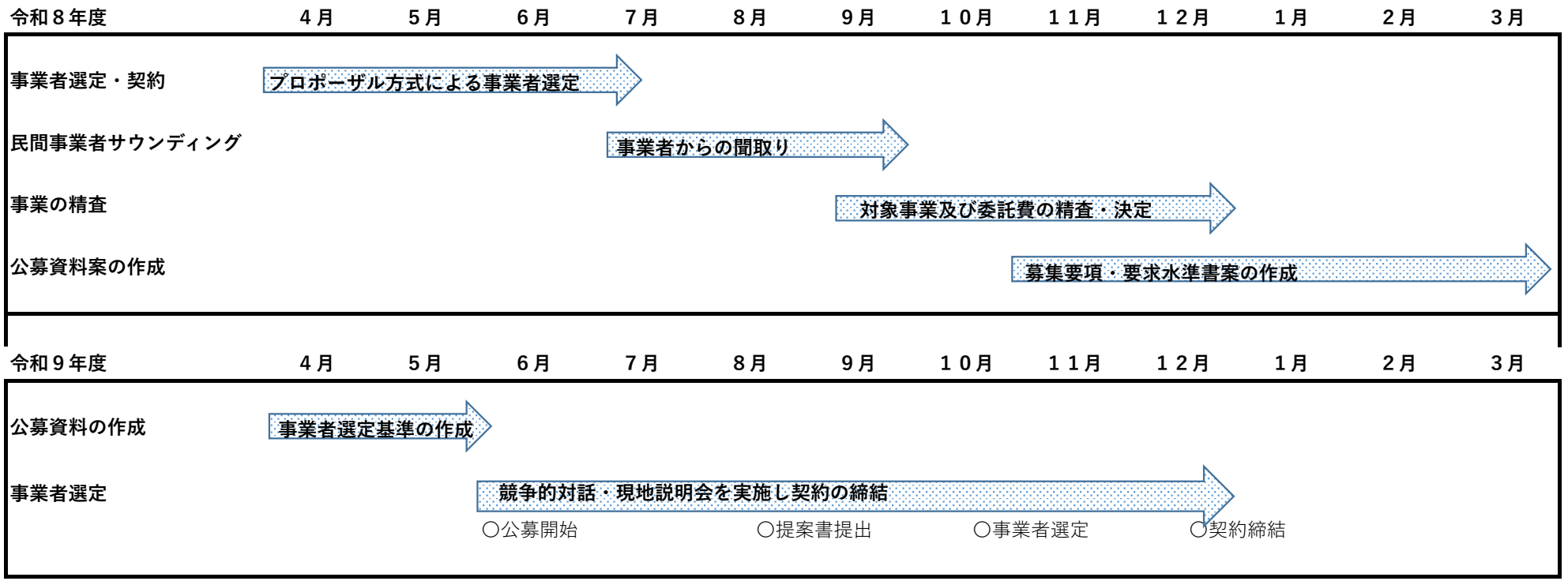
○WPPPに係る業務範囲



○導入を検討している業務委託

・水道事業	各種計画作成、水道管布設替計画作成、水道管布設替に係る設計・積算、浄水場の運営・維持管理　※漏水修繕業務
・下水道事業	各種計画作成、下水道管更新計画作成、下水道更新に係る設計・積算
・農業集落排水事業	各種計画作成、農業集落排水処理場の運営・維持管理
	※窓口、給水・排水検査等の窓口業務は別に検討中。

WPPP導入に係るスケジュール



競争的対話：国や自治体などの発注者が、複雑な公共工事やPFI事業などの調達において、仕様書や要求水準書をあらかじめ完全には固定せず、複数の民間事業者と個別に複数回の対話や協議を行いながら最適な提案や事業スキームを作り上げていく入札・契約方式のことです